

《資料》

明治中期～大正期の蘭苳生産

神 立 春 樹

目 次

- 1 はじめに
- 2 明治中期～大正期の蘭苳生産
 - (1) 生産高の推移
 - (2) 製造戸数・職工数
- 3 蘭苳業の県別展開
 - (1) 主要蘭苳生産県
 - (2) 主要蘭苳生産県における生産
- 4 蘭草生産
 - (1) 全国的動向
 - (2) 主要県の動向

1 はじめに

これまでに官庁統計における蘭苳生産の把握と統計書における記載状況を整理した。そして、製品の種別生産高がほぼ整い、製造戸数が把握されるのは1894（明治27）年からであるということから、この1894年に至る時期についても整理した。ここではこの1894（明治27）年以降の統計にもとづき明治・大正期の蘭苳生産に関する基礎的な統計資料の整理を行なう。

2 明治中期～大正期の蘭筵生産

(1) 生産高の推移

① 生産額

本論付表 I は明治・大正・昭和戦前期の蘭筵生産額を示したものである。

1894（明治27）年以降については、畳表に備後と琉球、其他となっているものが、1915（大正4）からは備後と琉球のみとなり、其他欄がなくなっている。1914（大正3）年の統計様式改正の「畳表ハ丸蘭（備後蘭又ハ単ニ蘭ト謂フ）若ハ三角蘭（苳苳又ハ七島蘭ト謂フ）ヲ以テ製織セルモノニ限り調査スベシ」にもとづくと、それ以前には蘭草以外の原料による畳表が把握され、それが其他欄であったということになる。1915年にある10年遡及表はこの其他を除いたものを畳表生産高（数量・価額）として集計し直したものをあげている。ここでの検討も、この蘭草を原料とするもののみを畳表とし、これに真座、莞筵を加えたものを蘭筵とする。なお参考までに畳表のうちの其他を含んだものをも掲載してある。

1894（明治27）年は、畳表は115万7699円、莞筵は203万6894円、真座は43万1336円、合計362万5688円であった。畳表31.9％、真座11.9％、莞筵56.2％という構成である。それ以前でなんとか結びつけることのできる1892（明治25）年には、畳表は123万1853円、真座は44万9192円であり、この両者は減少しているのである。莞筵は56万3800円であったので、この間に3.6倍となり、蘭筵のうちのウェイトは25.1％から56.2％へとなっている。すなわち、畳表、真座が停滞的であるのに対して、莞筵は急速に伸びていたのである。

この1894年を起点として明治半ば以降の展開をみていこう。

1894（明治27）年362万5928円であった蘭筵生産額は、1896（明治29）年571万7384円、1897年482万9576円、1898年564万2770円、となり、1899年には460万8408円といったん減少の後、翌1900年には618万3366円、1902年には

855万1129円、その後、また、減少するが1906年には1019万3997円となり、1914、15年800万台に下がるが1915年より増大し、1918年1927万2285円、1919年3161万1893円となる。1894年を100として、1896年157.7、1897年133.2、1888年155.6、1899年には127.0、1900年には178.5、1902年235.7、1906年281.0、1918年531.3、1919年871.5となる。

全体ではこのような推移であるが、種類別にみるとかなり異なる。それは豊表と莞莖において顕著に異なる。豊表は1894（明治27）年115万7698円が、1896年218万0586円、1897年216万0667円、1898年194万1300円、そして、1899年には195万3298円となる。1884年を100として、130.1、186.6、167.7、168.7となる。翌1900年には300万円台となり、その後1902年から1904年に200万円台に減少するが、1905年から増加し、1906年479万1702円、1907年515万8709円となり、以後1908年、1914年は400万台であることを除き、500万円台となる。さらに、1916年651万9028円、1917年884万2862円、1918年1127万6862円、1919年1995万0124円となり、1921年には2057万5319円とこの期間のピークとなる。指数では、1900年から200台、1906年から400台、1916年563.1の後、1917年、763.8、1918年974.1、1919年1723.3と伸び、1920年1312.2に減少の後、1921年1777.3となる。

莞莖は1892（明治25）年の56万3800円から、1894年には203万8288円へと増加し、この間に3.6倍の増加があり、この時期の伸びの大きいことをすでにみたが、さらに1896年には378万7280円となり、その増加は顕著である。その後は、1897年218万0586円、1898年320万9981円、1899年には209万0676円、1900年には245万6907円というように増減している。1892年には496万0487円、1903年には526万2099円となるが、以後減少に転じ、1905年からは400万円台、1900年からは300万円台、1914年からは1915年の146万円余を含み200万円台となっていく。1918年476万0329円、1919年715万3536円、そして1920年には834万7329円というこの期間の最大となる。指数でいうと、1892年を100として、1896年186.1、1897年107.2、1898年157.6を経て、1899年には

102.6にとどまり、畳表の168.7にはるかに及ばない。1902・1903・1904年には畳表を上回る指数となるが、この期間のほかはすべて畳表を下回る。そのみでなく、1808年の242.1をピークとして、以後は減少する。

以上、畳表と莞莖を対比しつつ蘭莖生産額の推移を検討してきた。ところで畳表として一括されているものは、実は二つのかなり異なるものが含まれている。一つは、灯心草科の蘭を原料とする畳表で、備後表として纏められているものである。もう一つは、莎草科の七島蘭、すなわち苳苳を原料とするもので、七島表、あるいは琉球表である。前者の製品は畳表として使用され、後者は下等の畳表および荷物包装用として広く需要されるという。この両者を比較的に見ていこう。

1894年の畳表のうち、備後は40万3035円、琉球表は52万0169円で後者が前者を上回っている。1899年には備後表は60万7709円となり、1900年の96万7463円を経て、1901年には105万2529円と100万円台となり、1906年201万6572円と200万円台、1910年301万5538円と300万円台となる。さらに1916年403万6456円、1917年684万1046円、1919年1213万3970円と伸び、1921年1428万6619円とピークに達するまで、増大している。1894年を100として、1889年160.7、1900年240.0、1901年263.6、1906年500、1910年748.2、1916年1001.5、1917年1402.2、1919年3010.6、そして1921年3544.8である。

これに対して琉球表は、1900年165万4096円、1901年151万2016円となり、指数で318.0、290.7と備後を上回るものとなっているが、それ以後の伸びは備後表に及ばず、絶対額においても、1909年以降備後表のそれよりも小さくなる。1916年248万2572円、1917年309万1584円、1918年443万5816円、1919年781万6154円とピークとなる。このように大正期に増加するが、最大の1919年の指数は1502.6で、備後表の3010.6の半分ではるかに及ばない。

② 生産量

以上は生産額であるが、生産数量でみていこう。本論付表Ⅱは生産数量を示す。

畳表と真蓆は枚数であり、莞蓆は本数であるので両者の合計は出すことができない。個別に見ていく。

1894（明治27）年の532万6659枚の畳表は、1895年には465万3230枚に減少した後、1896年には1066万9436枚と一挙に増加し、翌年いったん減少するが1898年には1077万7037枚と回復し、以後、1907年まで1000万台の前半、それ以後1000万台の後半、1917年に2017万7456枚となる。1894年を100とする指数でいうと、1895年87.4の後には、1896年200.3、1899年242.9と以後200台、1907年307.8で以後300台となり、1917年378.8、1923年407.0となる。

畳表を備後表、琉球表についてみると、1894（明治27）年には備後表191万0396枚、琉球表183万5017枚、両者を100とした構成は51％、49％である。以後1898年までは区分がないが、1899年は備後表は232万2359枚、琉球表は679万4251枚となり、1894年を100として、1899年には備後121.6、琉球370.3である。構成比は25.5％と74.5％となる。1894（明治27）年から1898年は内訳がないが、1899年のこの状況から1894年から1899年の間には琉球表の増加が著しい、琉球表拡大期と思われる。それ以後も両者ともに増加していくが、1910（明治43）年に備後表が琉球表を上回るとともに、1894年を100とした指数も備後表が琉球表を上回り、1915年備後表540.6、琉球表377.4と差が大きくなるのである。1910年頃からは備後表の生産の増加はかなり大きいといえる。

つぎに莞蓆をみよう。1894（明治27）年に31万0287本であった莞蓆は1896年は57万7181本となった。その後は減少するが、1903年には69万3737本、1903年には85万5742本となる。その後の1910年には80万4898本となるが、これは1903年には及ばない。遑って1894年をみると、この年は21万3552本であり、1894年を100として、68.8である。このようにみると、莞蓆は1896年に至る時期において最も拡大したということができよう。

(2) 製造戸数・職工数

本論付表Ⅲは製造戸数、職工数の推移を示す。

蘭苳の製造戸数については、1894（明治27）年から1897（明治30）年までは畳表及苳産業と莞苳業、1898年からはさらに畳表・苳産及莞苳業の別があり、さらに1915（大正4）年からは畳表と苳産及花苳の別となっている。その合計が全蘭苳製造戸数となる。1894（明治27）年6万8316戸であったものは、1895年には10万3044戸となり、以後1900・1901年は12万戸台となり、その後、1912（大正1）年の12万6651戸をピークとして、1910（明治43）～1913（大正2）年が12万台戸のほか、10万ないし11万台戸である。

畳表、苳産、莞苳と大きくは3種類のうちの苳産がある時期は畳表と、1915（大正4）年以降は莞苳と一緒にしているので明確にはその数を確定できないが、最も大きいのは畳表製造戸であり、莞苳ははるかに小さい。そして畳表は明治後期にもその数は増加しているが、莞苳は1905（明治28）年の1万3997戸が最大で、この明治20年代末から30年代初めが最も大きい時期であるといえる。

職工数の把握は1905（明治38）年からである。1914（大正3）年までと、1915年以降は上記戸数と同様の分類である。この職工数の推移から、1905年から1914年までの畳表及苳産と莞苳業、1915年以降の畳表と花苳及苳産の職工数の比較から、職工数も畳表に従事するものが大きい割合を占め、莞苳のそれは小さいといえる。しかし、製造戸数の場合と比べると、莞苳の職工数のウェイトはかなりたかいたといえる。

この製造戸数と職工数により1製造戸の職工数を算出すると、全蘭苳ではこの時期を通じて1製造戸あたり1.5人から1.8人であり、製造戸の多くが1人という最小規模であるといえる。これを畳表と莞苳でみると、1905年から1914年の間の畳表及苳産と莞苳の比較にみることができる。前者は1.46～1.61人で、後者は3.45～7.43人である。花苳及苳産となった以後の時期はそれは1.66～20.2人となって、1.52～1.64人の畳表との差は明白ではなくなっ

たが、莞苳は畳表より規模が大きく、かなりの職工を擁する製造場があったといえる。

3 蘭苳業の県別展開

(1) 主要蘭苳生産県

第1表は明治中期から大正期の蘭苳府県別上位10県を示すものである。

1899（明治32）年から1923（大正12）年までは同一基準のものであるが、1892（明治25）年はやや異なり、1885（明治18）年は大いに異なる。

1892（明治25）年以降、県別では岡山が終始第1位であり、ついで第2位が大分（1899年、1905年）、あるいは広島（1894年と1909年以降）であり、第3位は広島（1892年、1899年、1905年）あるいは大分（1894年と1909年以降）である。いずれにしても大分、広島が第2・3位を占めている。さらに第4位は福岡が大方で、1909年、1923年のみ静岡、第5位は大方が静岡で1914年が石川、1923年が福岡である。さらに第6位は、大方が石川で、1914年のみ福岡である。いずれにしても第4位から第6位は福岡、静岡、石川の3県である。このほか熊本が1905年以降は第7位のほか、島根、香川、富山、鹿児島、兵庫、高知がしばしば、あるいは時には上位10位に入っている。

終始第1位の岡山は、そのウェイトは大きく、1905（明治38）年は実に43.5%を占める。最も小さい1899年でも25.2%で、全体の4分の1である。第2位・3位の広島・大分もいずれも多くの人に十数%で、時にはともに20%台の年もある。この上位3県の占める割合は、最も小さい1914（大正3）年でも61.9%で、多くの年は65%以上、最大は1905年の74%である。3県への集中の度合いが顕著である。

これを畳表と莞苳についてみよう。

第1表第2欄は、畳表の上位10位の推移を示すものである。1904（明治

第1表 蘭蓆生産県の推移

		1885 (明治18)年		1892 (明治25)年		1894 (明治27)年		1899 (明治32)年	
		%		%		%		%	
蘭 蓆	1	広島	38.4	岡山	35.7	岡山	39.6	岡山	25.2
	2	福岡	21.7	大分	18.7	広島	18.1	大分	22.7
	3	岡山	21.1	広島	11.0	大分	12.8	広島	20.6
	4	静岡	9.1	福岡	8.7	福岡	7.3	福岡	10.3
	5	福島	4.5	静岡	5.4	石川	3.3	静岡	3.8
	6	高知	2.3	石川	3.3	静岡	2.9	石川	2.7
	7	山形	1.1	富山	2.1	熊本	1.8	佐賀	1.7
	8	兵庫	0.82	熊本	2.1	高知	1.3	島根	1.6
	9	宮城	0.61	高知	1.8	島根	1.2	熊本	1.5
	10	長崎	0.28	鹿児島	1.3	徳島	1.1	鹿児島	1.2
	1~3		81.2		65.4		70.5		68.5
	1~10		99.9		90.1		89.4		91.3
昼 表	1	広島	38.4	岡山	30.6	大分	20.1	大分	44.4
	2	福岡	21.7	大分	21.4	広島	15.2	岡山	14.9
	3	岡山	21.1	広島	8.9	岡山	13.4	広島	13.0
	4	静岡	9.1	静岡	8.8	福岡	8.4	静岡	6.8
	5	福島	4.5	福岡	7.1	石川	5.7	石川	3.0
	6	高知	2.3	熊本	3.6	静岡	5.3	島根	2.7
	7	山形	1.1	石川	3.0	熊本	4.0	熊本	2.0
	8	兵庫	0.82	富山	2.9	島根	2.6	佐賀	1.7
	9	宮城	0.61	高知	2.1	高知	2.0	鹿児島	1.0
	10	長野	0.28	滋賀	2.0	滋賀	1.6	滋賀	0.89
	1~3		81.2		60.9		48.7		72.3
	1~10		99.91		90.4		78.3		88.4
莞 蓆	1	—	—	岡山	74.8	岡山	61.3	岡山	44.2
	2	—	—	大分	25.2	広島	20.5	広島	30.3
	3	—	—	—	—	大分	6.7	福岡	17.1
	4	—	—	—	—	福岡	6.5	大分	2.2
	5	—	—	—	—	石川	1.2	香川	2.0
	6	—	—	—	—	徳島	0.91	徳島	1.0
	7	—	—	—	—	香川	0.88	石川	0.67
	8	—	—	—	—	静岡	0.82	高知	0.61
	9	—	—	—	—	高知	0.71	滋賀	0.46
	10	—	—	—	—	滋賀	0.27	福井	0.45
	1~3		—	100.0		88.50		91.6	
	1~10		—	—		99.79		99.0	

註1) 各年次の「農商務統計表」より作成。

1905 (明治38)年		1909 (明治42)年		1914 (大正3)年		1919 (大正8)年		1923 (大正12)年	
	%		%		%		%		%
岡山	43.5	岡山	38.4	岡山	29.1	岡山	26.5	岡山	32.9
大分	16.2	広島	16.3	広島	23.4	広島	21.0	広島	18.5
広島	14.3	大分	15.6	大分	9.4	大分	17.6	大分	15.3
福岡	7.0	福岡	5.7	静岡	5.6	福岡	7.9	静岡	7.6
静岡	3.2	静岡	4.5	石川	5.5	静岡	4.5	福岡	4.6
石川	2.9	石川	3.3	福岡	4.9	石川	4.0	石川	4.5
熊本	1.4	熊本	2.4	熊本	3.3	熊本	2.9	熊本	3.4
香川	1.2	兵庫	1.6	島根	1.9	香川	2.0	島根	1.8
島根	1.1	島根	1.2	富山	1.5	兵庫	1.9	富山	1.6
鹿児島	0.73	香川	1.0	鹿児島	1.1	島根	1.6	香川	1.2
	74.0		70.3		61.9		65.1		66.7
	91.5		90.0		85.7		89.9		91.4
大分	41.0	大分	31.4	広島	31.4	大分	27.6	広島	23.7
岡山	16.2	広島	20.9	岡山	15.1	広島	25.9	大分	23.0
広島	12.9	岡山	15.9	大分	14.9	岡山	13.4	岡山	18.7
愛知	6.7	静岡	6.7	静岡	7.4	静岡	6.6	静岡	9.7
石川	4.1	石川	3.9	石川	5.9	石川	4.9	石川	4.7
島根	2.5	熊本	3.5	熊本	4.7	熊本	4.2	熊本	4.7
福岡	2.3	島根	2.3	島根	3.1	福岡	2.9	島根	2.5
熊本	2.3	兵庫	2.0	兵庫	2.1	兵庫	2.8	福岡	1.8
長野	1.7	福岡	1.8	富山	1.9	島根	2.2	富山	1.5
鹿児島	1.6	宮城	1.5	鹿児島	1.8	鹿児島	1.2	兵庫	1.4
	70.1		68.2		61.4		66.9		65.4
	91.3		89.9		88.3		91.7		91.7
岡山	70.9	岡山	74.0	岡山	66.9	岡山	70.2	岡山	75.3
広島	13.4	広島	9.6	福岡	11.0	福岡	13.6	福岡	11.4
福岡	8.8	福岡	8.7	広島	9.8	広島	7.2	広島	7.2
石川	2.5	香川	2.6	東京	7.2	香川	6.7	香川	4.4
香川	2.3	静岡	1.6	香川	3.0	愛知	0.79	高知	0.64
高知	0.55	石川	0.90	高知	0.65	高知	0.51	愛知	0.59
山口	0.46	兵庫	0.63	石川	0.43	宮崎	0.31	石川	0.17
佐賀	0.22	熊本	0.43	佐賀	0.39	新潟	0.25	熊本	0.16
福井	0.15	高知	0.30	愛知	0.20	石川	0.15	新潟	0.09
熊本	0.11	山口	0.22	富山	0.18	兵庫	0.06	島根	0.02
	93.1		92.3		87.7		91.0		93.9
	99.4		99.0		99.8		99.77		99.97

27) 年に大分、広島、岡山を上位3県とした畳表は、以後第1位は大分(1909年まで)、広島(1914年以降)、第2位は、岡山(1899年、1905年、1914年)、広島(1909年、1919年)、大分(1913年)、第3位は広島(1909年、1905年)、岡山(1909年、1919年、1923年)、大分(1914年)と終始この3県が占めている。そしてそのウェイトも3県で60%から70%台を占めている。そのほかでは静岡、石川、熊本、島根がこの時期を通じて上位県となっているほか、愛知、福岡が年により上位に位置することがある。全国的にひろがっている畳表生産であるが、特定県がその中心となっていて、大きなウェイトを占めるのである。

第1表第3欄は莞莖についてのものである。1894(明治27)年に岡山は61.3%を占め、ついで広島20.5%、大分6.7%、さらに福岡6.5%が上位県であったが、大分が低下して1905(明治38)年には上位県から消え、岡山が終始抜群の大きさで第1位を占めるほかは、広島、福岡が第2・3位を占める。1909(明治42)年までは第2位は広島であったが、1914(大正3)年からはそれまで第3位であった福岡が第2位となり、広島が第3位となった。この3県で90%前後を終始占め、上位3県への集中は顕著である。畳表においても特定県への集中は大きかったが、莞莖においてはきわめて顕著であり、このことが藺莖全体の上位県への集中の顕著さをもたらす要因といえる。そのなかで特に著しいのは莞莖における岡山のウェイトの大きさである。畳表とは異なる新興輸出産業としての莞莖は岡山で始まったが、それは各地へひろがっていった。1892(明治25)年は大分が莞莖生産県となって岡山、大分の2県となったが、1894(明治27)年には広島、福岡などへの普及の結果、15県となり、さらに1909(明治32)年には20県、1905年21県、1909年には24県となっていく。この地域的拡大にもかかわらず岡山はそのウェイトの大きさを維持している。1892(明治25)年に25.2%を占めた大分は広島、福岡などでの展開のかげで伸びることなく撤退していった。広島、福岡にしても1894年から1892年以降急速に展開し、1899年にかけて拡大している

が、以後は伸びることない。輸出産業としての莞産が1907（明治40）年頃から停滞的になるでの各県の動向であるが、岡山への収斂がみられるとさえいえる。

（2）主要蘭産生産県における生産

製造戸数が初めて記載された1894（明治27）年の主要生産県における生産状況はこれまでに検討した。製造戸数を生産額からみた上位県についてみると、第1位（全国産額中の40.7%）の岡山530戸（全国製造戸中の0.60%）、第2位（同18.9%）の広島1万0237戸（11.6%）、第3位（同13.1%）の大分2万3448戸（26.6%）、第4位（同7.5%）の福岡8274戸（7.4%）、第5位（同3.4%）の石川2228戸（2.5%）、第6位（同2.9%）の静岡4391戸（5.0%）である。岡山は製造戸数が小さく、対照的に大分はそれが大きいという生産額と製造戸数のアンバランスによって各県の1製造戸あたりの生産額に大きな差異が生ずる。全国の1戸あたり生産額は41円8銭2厘であるが、岡山は2782円17銭2厘、広島は65円90銭6厘、大分は20円33銭4厘、福岡は33円2銭9厘、石川は54円62銭5厘、静岡は24円74銭9厘となる。岡山の抜群の大きさが目につく。そして大分の小ささも見すごせない。

そのうちわけをみると、莞産は全国平均316円40銭6厘に対して、岡山は4711円20銭8厘で15倍の大きさであるが、畳表及真産も全国平均30円24銭6厘に対して、岡山は853円13銭5厘で、広島25円9銭8厘、大分18円20銭5厘、福岡23円45銭9厘、石川43円47銭6厘、静岡20円55銭7厘と比較して抜き出た大きさであり、この岡山の大きさは、いずれにおいても抜群である。

本論付表Ⅳは上位6県についての製造戸数・職工数・生産高を記したものである。この付表Ⅳにもとづく第2表によりその生産状況を検討しよう。

生産額で終始最大であった岡山は畳表は大分あるいは広島につぐ第2ないし第3の産地であり、また真産でも1919年以降は広島につぐ第2、あるいは福岡につぐ第3の産地であるが、なんといっても最も顕著なのは花産におけ

第2表 主要蘭産生産県の占めるウェイトならびに1戸あたり職工1人あたり生産額

		生産額				製造戸数			
		合計	畳表	真蔭	莞蔭	合計	畳表及 真蔭	莞蔭	両者 兼業
		%	%	%	%	%	%	%	%
一八九九(明治32)年	岡山	25.2	14.9	2.8	44.2	8.2	9.5	5.6	4.5
	大分	22.7	44.0	1.5	2.2	26.5	25.4	61.4	15.7
	広島	20.6	13.0	19.9	30.3	0.2	6.8	12.6	43.0
	福岡	10.3	1.8	23.0	17.1	6.8	3.6	14.0	2.9
	静岡	3.8	6.8	4.4	—	4.4	6.2	—	18.7
	石川	2.7	3.0	8.4	0.67	2.9	2.8	0.28	12.3
	全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一九〇五(明治38)年	岡山	43.5	16.2	2.0	70.9	9.6	9.8	19.5	2.6
	大分	16.2	41.0	0.91	0.11	21.8	24.0	0.04	12.7
	広島	14.3	12.9	26.1	13.4	11.6	8.4	36.4	28.8
	福岡	7.0	2.3	17.2	8.8	8.0	3.4	36.4	35.1
	静岡	3.2	6.7	6.2	0.09	4.6	5.1	0.02	2.7
	石川	2.9	4.1	0.21	2.5	3.7	2.7	5.0	11.6
	全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一九〇九(明治42)年	岡山	38.4	15.9	15.6	74.0	9.0	6.1	73.1	6.2
	広島	16.3	20.9	18.9	9.6	12.7	9.1	8.2	34.7
	大分	15.6	31.4	0.56	0.20	19.0	26.9	0.46	1.1
	福岡	5.7	1.8	12.2	8.7	7.9	3.0	9.9	33.0
	静岡	4.5	6.7	5.3	1.6	4.4	5.6	1.0	1.2
	石川	3.3	3.9	8.7	0.90	3.7	2.5	1.2	16.0
	全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一九一四(大正3)年	岡山	29.1	15.1	11.4	66.9	9.2	7.9	23.3	11.3
	広島	23.4	31.4	18.2	9.8	13.6	11.7	24.1	25.3
	大分	9.4	14.9	5.5	0.12	17.9	19.3	0.03	3.8
	静岡	5.6	7.4	9.7	—	4.3	4.88	—	—
	石川	5.5	5.9	11.2	0.42	3.9	3.4	1.1	11.2
	福岡	4.9	1.6	6.2	11.0	7.0	2.7	35.3	39.3
	全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一九一九(大正8)年		(合計)	(畳表)	(莞蔭)	(真蔭)	(合計)	(畳表)	(莞蔭及 真蔭)	
	岡山	26.4	13.4	15.2	70.2	9.5	11.5	4.0	
	広島	21.0	25.9	21.5	7.2	13.7	11.6	19.4	
	大分	17.5	27.6	1.1	0.06	17.0	23.2	0.10	
	福岡	7.9	2.9	21.2	13.6	6.5	2.4	17.7	
	静岡	4.5	6.6	2.5	—	5.0	5.3	4.3	
	石川	4.0	4.9	6.1	0.15	4.0	4.5	2.7	
全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		

註1) 付表Ⅲより作成。

職 工 数				1戸あたり職工数				1戸あたり	1人あたり
合計	畳表及 眞 産	莞 産	両者 兼業	合計	畳表及 眞 産	莞 産	両者 兼業	生産額	生産額
%	%	%	%	%	%	%	%	円	円
								162.688	
								45.697	
								107.809	
								80.164	
								46.122	
								48.665	
								51.915	
16.1	8.4	66.6	3.3	2.82	1.27	18.41	1.91	210.579	118.871
28.9	36.0	0.24	12.8	2.21	2.25	31.0	1.53	54.696	24.775
11.4	8.0	17.3	31.2	1.64	1.43	2.56	2.46	90.925	55.389
5.4	1.8	8.5	31.7	1.13	0.76	1.26	1.38	64.435	57.122
0.96	2.3	2.8	11.6	0.35	0.37	—	—	51.282	148.221
3.2	1.2	—	—	1.43	1.24	3.01	1.47	58.409	40.744
100.0	100.0	100.0	100.0	1.67	1.50	5.38	1.52	73.602	44.106
16.5	6.1	73.1	6.2	3.31	1.10	23.50	2.65	373.793	113.077
10.5	9.1	8.2	34.7	1.50	1.38	1.76	1.92	112.312	74.715
21.2	26.9	0.46	1.1	2.02	2.02	76.5	1.07	71.994	35.688
6.0	3.0	9.9	33.0	1.36	1.30	1.45	1.37	63.328	46.568
4.6	5.6	1.0	1.2	1.90	1.99	1.01	1.24	90.260	47.403
3.1	2.5	1.2	16.0	1.53	1.38	1.39	1.99	78.022	50.972
100.0	100.0	100.0	100.0	1.81	1.61	5.48	1.71	87.793	48.442
12.6	6.0	15.3	54.2	2.32	1.16	1.00	14.49	222.166	95.939
12.9	11.7	27.9	14.8	1.59	1.55	1.76	1.76	120.729	75.725
23.0	27.4	0.08	2.7	2.18	2.18	3.50	2.18	36.985	42.167
4.4	5.3	—	—	1.72	1.72	—	—	91.079	52.910
3.1	3.0	1.3	4.8	1.35	1.38	1.82	1.20	91.825	68.032
5.4	2.1	28.9	19.0	1.31	1.19	1.25	1.46	48.988	37.337
100.0	100.0	100.0	100.0	1.64	1.53	1.52	3.01	67.962	41.518
(合計)	(畳表)	(莞産及 眞 産)		(合計)	(畳表)	(莞産及 眞 産)		(1戸あたり 生産額)	(1人あたり 生産額)
9.0	7.4	13.3		1.53	1.04	5.47		760.970	495.575
13.9	11.1	21.4		1.54	1.82	1.65		419.752	254.768
25.6	35.2	0.17		2.44	2.44	2.58		281.837	115.558
5.5	2.2	14.3		1.38	1.48	1.34		333.179	242.274
5.2	5.5	4.5		1.68	1.67	1.70		246.400	146.792
3.3	3.6	2.6		1.36	0.77	1.61		276.373	203.835
100.0	100.0	100.0		1.62	1.61	1.66		273.423	168.946

る抜群の大きさである。1899年は全国の44.2%であるが、1905年以降は66.9%から74.0%という7割前後を占めている。岡山につぐ第2、あるいは岡山、広島につぐ第3の大部分は、1909年を除きその他の年は畳表の生産は第1で、ことに1899年、1905年は4割を越える抜きん出た大きさである。そして真蔭、莞蔭におけるウェイトはきわめて小さい。畳表に特化しているといえる。そしてそれは琉球表である。広島は畳表においても十数%から30%を越えるウェイトを占め、また、莞蔭においても最も大きい1899年の30.3%、最も小さい1919年の7.2%というある程度の大きさの、第2ないし第3の産地である。そして真蔭は全国の18.2%から26.1%を占め、1899年を除き第1の真蔭生産県である。広島は多様な蔭蔭生産があった。多くの年に第4位である福岡は畳表におけるウェイトは大きくなく、莞蔭において第3ないし第2、そして真蔭において1914年の6.2%を除き23.0%から12.2%を占める第1から第3に位置する真蔭生産県である。静岡、石川は莞蔭生産は小さいかゼロであり、畳表・真蔭の生産県である。

これら主要県における製造戸数の占有率であるが、岡山は最大でも9.6%のウェイトで生産額におけるその大きさと比較してそれは著しく小さい。広島もいずれの年においても、その開きは岡山ほどではないが同様である。大部分はこの2県と対照的に製造戸数におけるウェイトが生産額におけるウェイトを上回っている。その他の3県はいずれも製造戸数のウェイトが生産額におけるウェイトをあるいは上回り、あるいは下回るというように年によって異なり、上位3県のような同一傾向を示さない。

職工数であるが、岡山は1919年以外の年では職工数のウェイトは製造戸数のそれを上回るが、職工数におけるウェイトはいずれの年も生産額におけるそれを下回っている。広島は1919年を除くその他の年は職工数におけるウェイトは製造戸数におけるそれを上回っている。大部分はいずれの年も職工数におけるウェイトは製造戸数におけるそれを上回り、生産額におけるそれを上回っている。その他の3県は年により多様である。

以上の製造戸数、職工数、生産額におけるウェイトに示めされるその数の

在り方によって主要県の生産条件は県によって異なってくる。岡山は1戸あたりの職工数は1919年を除いてすべての年において最も大きい。職工数を製造戸の豊表及真莖、莞莖、豊表及真莖・莞莖を兼ねるものという種別1戸あたりでみると、1905年、1909年の莞莖1戸あたり、1914年の両者兼業の1戸あたりの大きさにみられる莞莖1戸あたりの職工数の大きさは抜群である。そして1戸あたり生産額はいずれの年も全国平均の3～4倍の大きさで、主要県においてもきわだった大きさである。また職工1人あたりの生産額も2～3倍の大きさで、終始第1の大きさである。生産額は豊表、真莖、莞莖の3区分で製造戸数・職工数における3区分とその区分の仕方が異なるため種類別1戸あたり生産額は算出できないが、莞莖製造戸における生産額はきわめて大きいといえよう。すなわち、莞莖にはかなりの職工規模、多額の生産額をあげている製造所があるということである。これと対照的であるのが大分である。製造戸1戸あたりの職工数は岡山につぐが、それは豊表及真莖におけるそれである。その戸数はきわめて大きく、職工数も大きい、1戸あたり生産額は全国平均よりも小さく、主要県では最小で、職工1人あたりも同様である。大分の主生産は琉球表であるが、それは膨大な数の農家の家内生産として行われたということを推測することができる。多様な蘭莖を生産する広島は両県の中間的な状況にあったものと思われる。

4 蘭草生産

(1) 全国的動向

蘭莖の原料である蘭草についての統計的把握が始まるのは1905（明治38）年で、それ以前の農商務統計では1884（明治17）、1885（明治18）年についての把握があるに過ぎない。本論付表Vはこの蘭草生産の推移を示す。

蘭莖の原料は蘭草であるが、それは狭義の蘭＝丸蘭（備後蘭）と七島蘭＝三角蘭（苜蓿）がある。この両者からなる蘭草生産は統計的に整備される1905（明治38）年は5846町1反、その生産量1348万4967貫である。内わけ

は、備後蘭3941町、1014万8212貫、七島蘭1905町1反、333万6755貫である。生産量で備後蘭が75.3%、七島蘭が24.7%である。この年は明治10年代からの、ことに20年代後半に至る時期の輸出向莞莖の著しい発展があった後である。それに対応して蘭草栽培も大きく拡大した。備後蘭の生産は1884（明治17）年は1309町歩・277万8000貫、1885（明治18）年は1398町歩・403万7000貫であったので、生産高で1884から1905（明治38）年間に3.7倍、1885年から1905年間に2.5倍と大きく増加している。

このように大きく伸張した後の1905（明治38）年であるが、それ以降も増減を繰り返しながら増加していく。蘭草全体では、1908（明治41）年、1917（大正6）年、1924（大正13）年、1929（昭和4）年、1934（昭和9）年を収穫高、そして栽培面積のピークとする増減を繰り返しながら増加して1934年に至っている。この傾向をもたらしているのは、1905年に蘭草全体のうちのほぼ4分の3を占めた備後蘭の動向による。備後蘭の収穫高、栽培面積はまさしく上述の年をピークとしつつ増減を繰り返しながら1934年の最大へと増加しているのである。七島蘭も同じ年、ないしその前後にピークをおきながら増減しているが、全体を規定するものではない。これは七島蘭は琉球表の原料であるが、備後蘭は備後表と莞莖であり、後者のうちの莞莖が輸出品であることによって海外市場の動きに左右されることから、原料生産に影響を与えていることの結果であり、これが全体を規定しているといえよう。

(2) 主要県の動向

本論付表Ⅵは、生産高を基準とした主要蘭草生産県を示すものである。1905（明治38）年は福岡、大分、岡山、広島、熊本、鹿児島、石川、静岡、佐賀、宮城を上位10県とするが、1909年には佐賀が落ちて島根が入り、1914年には島根が落ちて沖縄が入り、1919年にはこの沖縄が落ちて宮城が入り、1924年には宮城が落ちて高知が入るといふ若干の出入りのみで、上位10県はほぼかわらない。ことに上位4県は順序は入れかわるが、福岡、大分、岡山、広島の4県である。

第3表 主要藺草生産県のウエイト

	数 量				数 量			価 額		
	備後藺	七島藺	合 計		備後藺	七島藺	合 計	備後藺	七島藺	合 計
	%	%	%		%	%	%	%	%	%
福 岡	52.7	5.5	41.0	岡 山	33.2	0.84	23.6	35.8	0.42	19.2
大 分	0.16	63.3	15.8	大 分	0.15	59.2	17.8	0.24	48.7	22.9
一 九〇五	13.1	—	9.9	一 九〇五	23.6	0.28	16.7	25.4	0.16	13.6
(明治38)	12.9	—	9.7	(明治38)	12.3	3.7	9.8	11.6	2.2	7.8
年	3.1	9.4	4.6	年	4.9	7.1	5.6	3.6	15.8	9.3
廣 島	1.8	3.5	2.2	廣 島	5.6	0.02	3.9	4.8	0.01	2.6
熊 本	2.8	—	2.0	熊 本	0.58	8.4	2.9	0.73	7.2	3.8
鹿 児 島	0.67	5.1	1.8	鹿 児 島	3.4	0.01	2.4	2.6	0.01	1.4
石 川	0.12	5.7	1.5	石 川	0.29	5.9	2.0	0.36	3.4	1.8
静 岡	1.6	4.4	1.2	静 岡	2.3	0.45	1.6	1.9	0.18	1.1
宮 城	66.0	68.8	66.1	宮 城	57.0	60.3	58.1	61.4	49.3	55.7
1～3	87.4	96.9	89.7	1～3	86.3	85.9	86.3	88.0	78.1	89.3
1～10				1～10						
大 分	0.16	62.2	19.5	大 分	44.7	0.24	32.2	47.6	0.18	33.5
一 九〇九	28.2	—	19.4	一 九〇九	0.01	64.4	18.1	0.01	68.1	20.2
(明治42)	23.0	—	15.8	(明治42)	22.0	0.06	15.8	22.4	0.04	15.8
年	13.1	4.2	9.0	年	0.80	4.1	6.9	7.2	3.5	6.1
廣 島	6.9	—	4.8	廣 島	5.0	7.1	5.6	5.6	8.1	6.4
熊 本	3.8	6.0	4.5	熊 本	3.7	6.9	4.5	1.5	9.8	3.9
鹿 児 島	0.82	10.2	3.8	鹿 児 島	3.1	—	2.2	3.8	—	2.6
石 川	5.0	0.11	3.5	石 川	2.8	0.00	2.0	2.5	0.02	1.7
静 岡	0.29	8.6	2.9	静 岡	0.18	5.6	1.7	0.02	3.6	1.2
宮 城	3.8	—	2.6	宮 城	1.7	0.73	1.4	1.1	0.37	0.90
1～3	52.4	62.2	54.7	1～3	66.7	64.7	66.1	70.0	68.3	69.5
1～10	86.1	91.3	85.8	1～10	80.9	89.1	90.4	91.7	93.7	86.2

註1) 付表Ⅵより作成。

第3表は、この付表Ⅵにより各県のウエイトを示すものである。この間を通じて上位県への集中は、上位3県に54.7～66.1%，上位10県で85.8～89.7%と大きい。これら上位県の備後藺と七島藺におけるウエイトをみると、備後藺は福岡、岡山、広島が大きく、これら3県で64.3～78.7%を占める。七島藺は大分が6割前後という抜群のウエイトで、熊本、静岡などがある程度のウエイトを占める。

これらの県はいずれも藺苳生産県であり、このように、藺苳生産は同じ地域での藺草生産を基礎としているのである。

付表 I 蘭産生産額の推移

年次	量 表				計	真産	輸 出 莞 向 莖	合計 I	合計 II
	備後表 備後表	琉球表 琉球表	小計	其他					
1885(明治18)年	円 241,686	円 38,962	円 280,648	円 —	円 280,648	円 —	円 —	円 280,648	円 280,648
1892(25)年			1,231,853	—	1,231,853	449,192	563,800	2,244,845	2,244,845
1894(27)年	403,035	520,169	923,204	234,495	1,157,699	431,336	2,036,894	3,627,082	3,391,434
1895(28)年	461,140	749,259	1,210,399	296,119	1,506,518	423,686	3,790,286	5,720,490	5,424,371
1896(29)年	466,417	1,321,393	1,787,810	372,857	2,160,667	488,323	2,183,721	5,832,711	4,459,845
1897(30)年	500,517	1,152,818	1,653,335	287,965	1,941,300	491,489	3,217,482	5,650,271	5,362,306
1898(31)年	647,709	1,019,380	1,667,089	286,209	1,953,298	564,454	2,090,676	4,608,428	4,322,219
1899(32)年	967,463	1,654,046	2,621,509	403,625	3,025,134	702,325	2,440,151	6,186,610	5,763,985
1900(33)年	1,062,529	1,512,016	2,574,545	475,501	3,050,046	704,104	3,039,795	6,793,945	6,318,444
1901(34)年	1,115,023	1,225,255	2,340,278	457,248	2,797,526	781,296	4,960,487	8,539,309	8,082,061
1902(35)年	1,232,405	963,533	2,195,938	362,208	2,558,146	687,584	5,262,974	8,508,704	8,146,496
1903(36)年	986,328	929,353	1,915,681	322,763	2,238,444	608,716	4,135,097	6,982,257	6,659,494
1904(37)年	1,002,896	1,044,655	2,047,551	252,699	2,300,250	551,757	4,092,375	6,944,382	6,691,683
1905(38)年	1,063,158	1,562,959	2,626,117	444,191	3,070,308	682,077	4,079,509	7,831,894	7,387,703
1906(39)年	2,016,572	2,256,900	4,273,472	503,485	4,777,047	853,033	4,548,299	10,178,379	9,674,804
1907(40)年	2,359,062	2,179,455	4,538,517	620,202	5,158,719	1,154,800	4,726,205	11,039,724	10,419,522
1908(41)年	2,075,691	2,216,907	4,292,598	680,290	4,972,888	1,165,043	4,933,826	11,071,757	10,391,467
1909(42)年	2,328,160	2,108,347	4,436,507	651,341	5,087,848	1,239,320	4,015,051	10,342,219	9,690,878
1910(43)年	3,015,538	2,169,564	5,185,102	465,856	5,650,958	1,136,251	3,312,143	10,099,352	9,633,496
1911(44)年	3,112,921	2,055,227	5,168,148	707,700	5,875,848	1,270,570	3,261,575	10,407,993	9,700,293
1912(大正1)年	3,082,748	2,084,099	5,166,847	736,201	5,903,048	1,322,454	3,478,236	10,703,738	9,967,537
1913(2)年	3,205,179	1,993,331	5,198,510	516,993	5,805,503	1,258,212	4,070,362	11,134,077	10,527,084
1914(3)年	2,879,006	1,195,860	4,074,866	557,069	4,631,935	1,156,363	2,255,581	8,043,829	7,486,810

1915 (4) 年	3,424,196	1,757,092	5,181,288	-	5,181,288	1,450,700	1,465,375	-	8,097,363
1916 (5) 年	4,036,456	2,482,572	6,519,028	-	6,519,028	2,403,003	2,072,995	-	10,995,026
1917 (6) 年	5,651,278	3,191,584	8,842,862	-	8,842,862	2,485,929	2,420,406	-	13,749,197
1918 (7) 年	6,841,046	4,435,816	11,276,862	-	11,276,862	3,235,004	4,760,320	-	19,272,186
1919 (8) 年	12,133,970	7,816,154	19,950,124	-	19,950,124	4,508,233	7,153,536	-	31,611,893
1920 (9) 年	10,110,637	5,080,996	15,191,633	-	15,191,633	3,565,028	8,347,329	-	27,013,990
1921 (10) 年	14,286,619	6,288,700	20,575,319	-	20,575,319	2,860,419	8,014,114	-	31,449,852
1922 (11) 年	12,504,993	7,194,764	19,699,757	-	19,699,757	1,895,232	6,416,833	-	28,011,822
1923 (12) 年	13,004,758	6,712,847	19,717,605	-	19,717,605	2,202,317	7,792,582	-	29,712,504
1924 (13) 年	13,550,943	6,015,320	19,566,263	-	19,566,263	2,486,958	7,893,926	-	29,947,147
1925 (14) 年	12,025,732	5,960,214	17,985,946	-	17,985,946	1,804,617	8,058,351	-	27,848,914
1926(昭和1)年	10,182,607	4,496,966	14,679,573	-	14,679,573	1,672,884	6,317,130	-	22,669,587
1927 (2) 年	10,351,013	4,367,175	14,718,188	-	14,718,188	1,401,108	6,350,478	-	22,469,774
1928 (3) 年	10,744,049	5,205,130	15,949,179	-	15,949,179	1,893,233	6,240,348	-	24,082,760
1929 (4) 年	9,756,962	3,860,179	13,617,141	-	13,617,141	2,046,651	6,779,034	-	22,442,826
1930 (5) 年	6,368,504	2,416,733	8,785,237	-	8,785,237	1,163,879	4,195,499	-	14,144,615
1931 (6) 年	7,060,686	2,647,284	9,707,970	-	9,707,970	1,194,145	3,770,555	-	14,672,670
1932 (7) 年	7,315,250	2,799,878	10,115,128	-	10,115,128	1,159,186	3,818,664	-	15,092,978
1933 (8) 年	7,734,535	2,983,110	10,717,645	-	10,717,645	1,373,765	5,079,155	-	17,170,565
1934 (9) 年	9,992,546	3,104,951	13,097,497	-	13,097,497	1,000,004	7,018,025	-	21,115,526
1935 (10) 年	9,464,859	3,155,905	12,620,764	-	12,620,764	988,524	6,070,349	-	19,679,637
1936 (11) 年	11,239,396	3,465,927	14,705,323	-	14,705,323	1,427,085	7,796,009	-	23,928,417
1937 (12) 年	12,832,150	4,343,895	17,176,045	-	17,176,045	3,181,366	8,342,742	-	28,700,153
1938 (13) 年	15,679,340	5,357,823	21,037,163	-	21,037,163	8,646,431	9,782,202	-	39,465,796

註1) 各年次の「農商務統計表」,「商工省統計表」より作成。

2) 合計Ⅰは畳表計+真産+輸出向莞莖, 合計Ⅱは畳表中の備後表琉球表+真産+輸出向莞莖。

3) 輸出向莞莖欄は1915年からは莞莖。

付表Ⅱ 蘭荳生産量の推移

年次	疊 表				計	真 産	輸 出 莞	向 産 荳
	備後表・琉球表 備後表	琉球表	小 計	其 他				
明治								
1884 (17) 年	枚 1,428,277	枚 538,269	枚 1,966,546	枚 —	枚 1,966,546	枚 —	本 —	
1885 (18) 年	3,880,024	794,551	4,674,575	—	4,674,575	—	—	
1892 (25) 年			9,734,969		9,734,969	6,672,595	(39,709卷)	
1894 (27) 年	1,910,396	1,835,017	3,745,413	1,581,246	5,326,659	3,537,891	173,844 (5,154枚)	
1895 (28) 年	2,080,076	1,073,020	3,153,096	1,500,134	4,653,230	3,652,622 (260本)	310,287 (8,620枚)	
1896 (29) 年	2,060,092	6,560,672 (449,457本)	8,620,764 (449,457本)	2,048,672	10,669,436 (449,457本)	3,278,903	577,181 (短物531枚)	
1897 (30) 年	2,001,391	1,834,722	3,836,113	1,674,742	5,510,855	3,555,916	340,508 (54,220卷)	
1898 (31) 年	2,322,359	6,794,251	9,116,610	1,660,427	10,777,037	5,286,128 (120本4,100個)	478,983 474,898	
1899 (32) 年	3,645,492	7,452,910	11,098,402	1,841,312	12,939,714	6,306,970	409,960	
1900 (33) 年	3,585,808	6,770,663	10,356,471	2,123,626	12,480,097	6,281,688	478,125	
1901 (34) 年	3,630,536	6366,960	9,997,496	1,995,020	11,992,516	6,524,574 (226本)	693,737 (1,070枚)	
1902 (35) 年	4,452,194	5,403,240	9,855,434	1,755,302	11,610,736	6,195,486	855,743 (270枚)	
1903 (36) 年	4,304,275	6,341,868	10,646,143	1,914,140	12,560,283	7,164,614	630,712	
1904 (37) 年	4,336,423	4,823,143	9,159,566	1,581,331	10,740,897	6,351,558	661,901	
1905 (38) 年	4,553,274	6,318,873	10,872,147	1,174,572	12,046,719	6,392,609	556,855 (70枚)	
1906 (39) 年	5,239,434	7,354,136	12,593,570	1,903,488	14,497,058	6,628,772	631,744 (80枚)	
1907 (40) 年	5,835,227	6,741,523	12,576,750	2,095,020	14,671,770	6,839,068	662,331	
1908 (41) 年	6,195,594	7,812,668	14,008,262	2,385,866	16,394,128	7,957,079	715,418	
1909 (42) 年	6,825,839	7,608,358	14,434,197	2,627,715	17,061,912	8,431,244	645,511	
1910 (43) 年	8,482,808	7,476,518	15,959,326	1,919,446	17,878,772	8,982,160	804,898	
1911 (44) 年	8,865,586	7,857,374	16,722,960	2,715,741	19,438,701	9,339,896	528,333	

大正								
1912 (1) 年	8,807,540	8,341,291	17,148,831	2,712,753	19,861,584	14,291,078	651,818 (1,437,633枚)	
1913 (2) 年	9,179,264	7,809,091	16,988,355	2,142,439	19,130,794	10,059,117	724,259	
1914 (3) 年	8,504,820	5,857,044	14,361,864	2,276,707	16,638,571	9,082,369	491,649	
1915 (4) 年	10,328,026	6,925,532	17,253,558	—	17,253,558	11,348,134	302,731	
1916 (5) 年	9,934,409	8,313,900	18,248,309	—	18,248,309	11,379,626	335,891	
1917 (6) 年	11,744,910	8,432,546	20,177,456	—	20,177,456	9,013,169	349,686	
1918 (7) 年	11,352,493	7,166,445	18,517,938	—	18,517,938	8,802,678	460,497	
1919 (8) 年	11,566,432	8,445,108	20,011,540	—	20,011,540	11,091,794	640,874	
1920 (9) 年	10,328,310	7,824,875	18,151,685	—	18,151,685	7,926,935	653,794	
1921 (10) 年	11,670,553	8,077,761	19,748,314	—	19,748,314	5,988,612	661,617	
1922 (11) 年	11,957,228	9,156,869	21,114,097	—	21,114,097	5,289,552	516,355	
1923 (12) 年	12,520,655	9,160,889	21,681,544	—	21,681,544	5,259,098	679,548	
1924 (13) 年	14,236,431	8,761,731	22,998,162	—	22,998,162	6,214,787	750,176	
1925 (14) 年	14,719,001	9,022,275	23,741,276	—	23,741,276	5,292,154	855,308	
昭和								
1926 (1) 年	13,701,862	8,920,875	22,622,737	—	22,622,737	5,186,578	744,580	
1927 (2) 年	13,864,376	8,426,783	22,291,159	—	22,291,159	5,140,457	822,715	
1928 (3) 年	14,193,921	8,647,237	22,841,158	—	22,841,158	5,769,212	775,305	
1929 (4) 年	14,403,195	8,208,092	22,611,287	—	22,611,287	6,234,031	903,771	
1930 (5) 年	13,417,520	7,538,622	20,956,142	—	20,956,142	5,536,872	819,096	
1931 (6) 年	14,602,492	7,334,797	21,937,289	—	21,937,289	5,391,914	799,185	
1932 (7) 年	14,261,791	7,900,306	22,162,097	—	22,162,097	4,589,969	759,967	
1933 (8) 年	14,440,051	8,078,722	22,518,773	—	22,518,773	4,995,779	901,895	
1934 (9) 年	19,537,791	7,444,165	26,981,956	—	26,981,956	4,158,352	1,360,671	
1935 (10) 年	19,209,331	7,254,571	26,463,902	—	26,463,902	3,694,064	1,281,248	
1936 (11) 年	19,546,692	6,288,285	25,834,977	—	25,834,977	4,401,601	1,450,185	
1937 (12) 年	19,726,036	7,558,119	27,284,155	—	27,284,155	8,668,717	1,323,845	
1938 (13) 年	20,201,465	7,079,487	27,280,952	—	27,280,952	14,316,434	1,286,423	

註1) 付表1と同一資料より作成。

2) 単位は、産表、真産は枚、輸出向莞産(1915年からは莞産)は本。ただし()内は別単位。

付表Ⅲ 蘭廷 製造戸数・職工数の推移

	製 造 戸 数				職 工 数						
	疊表及 眞産業	完産業	疊表眞産及 完産兼業	合計	疊表及眞産業		完産業		疊表眞産完産兼業		合計
	戸	戸	戸	戸	人	人	人	人	人	人	人
明治 (27) 年	61,874	6,442		68,316							
1895 (28) 年	89,067	13,977		103,044							
1896 (29) 年	92,053	9,743		101,796							
1897 (30) 年	98,068	11,032		109,100							
1898 (31) 年	80,407	4,458	17,128	101,993							
1899 (32) 年	82,592	8,920	27,657	119,169							
1900 (33) 年	83,393	9,715	29,587	122,695							
1901 (34) 年	89,569	6,177	28,845	124,591							
1902 (35) 年	88,684	6,715	22,810	118,209							
1903 (36) 年	82,083	3,995	25,231	111,309							
1904 (37) 年	88,390	4,728	12,865	105,983							
1905 (38) 年	91,215	4,659	10,535	106,409	58,442 77,992	136,434	4,759 20,318	25,077	4,251 11,808	16,059	77,570
1906 (39) 年	95,153	5,297	9,552	110,002	64,733 88,175	152,908	4,993 20,551	25,544	4,640 12,806	17,446	195,898
1907 (40) 年	96,017	6,290	10,668	112,975	56,849 83,627	140,476	4,973 22,764	27,737	3,360 13,698	17,058	185,271
1908 (41) 年	101,399	6,777	8,913	117,089	66,494 96,185	162,679	3,633 27,536	31,169	12,953 11,686	14,639	208,487
1909 (42) 年	104,101	6,031	7,670	117,802	69,439 97,907	167,346	3,453 29,585	33,038	2,804 10,311	13,115	213,499
1910 (43) 年	106,501	5,842	8,859	120,902	69,274 98,751	168,025	4,060 31,017	35,077	2,772 11,046	13,818	216,920
1911 (44) 年	108,620	4,954	10,350	123,924	70,158 100,936	171,094	3,399 30,039	33,438	3,330 12,320	15,650	220,182
大正 1912 (1) 年	111,368	5,262	10,021	126,651	69,303 101,024	170,327	2,199 8,068	10,267	4,926 34,172	39,098	219,692
1913 (2) 年	110,368	5,262	9,873	125,503	66,777 104,551	171,328	3,176 27,166	30,342	2,455 11,801	14,256	215,926
1914 (3) 年	101,011	5,600	8,243	114,854	62,695 98,359	161,054	1,876 6,652	8,528	3,441 21,380	24,821	194,403
	(疊表)	(眞産及 完産)	(合計)		(疊表)		(眞産及完産)				(合計)
					58,403		12,351				

1915 (4) 年	87,435	22,305	109,740	85,011	143,414	32,807	45,158	188,572
1916 (5) 年	88,650	25,976	114,626	53,340		13,012		
1917 (6) 年	92,517	25,646	118,163	87,292	140,632	38,372	51,384	192,016
1918 (7) 年	89,856	27,430	117,286	54,671		11,264		
1919 (8) 年	84,950	30,840	115,790	90,930	145,601	40,291	51,555	197,156
1920 (9) 年	82,404	28,991	111,395	51,899		9,528		
1921 (10) 年	83,808	23,904	106,712	90,969	142,868	40,189	49,717	192,585
1922 (11) 年	84,807	24,638	109,445	49,218		13,167		
1923 (12) 年	87,309	25,627	112,936	87,150	136,368	37,875	51,042	187,410
1924 (13) 年	90,726	25,463	116,189	47,461		12,295		
1925 (14) 年	93,585	25,272	118,857	84,804	132,265	38,196	50,491	182,756
昭和 1926 (1) 年	88,941	20,711	109,652	46,573		11,278		
1927 (2) 年	84,239	19,938	104,177	80,758	127,331	33,339	44,617	171,948
1928 (3) 年	82,628	20,403	103,031	45,944		11,190		
1929 (4) 年	80,983	20,053	101,036	84,379	130,323	36,429	47,619	177,942
1930 (5) 年	78,053	18,712	96,765	42,622		11,024		
1931 (6) 年	78,551	19,200	97,751	84,790	127,412	34,360	45,384	172,796
1932 (7) 年	78,421	18,535	96,956	43,856		9,778		
1933 (8) 年	77,904	18,873	96,777	85,754	129,610	34,726	44,504	174,114
1934 (9) 年	79,357	17,015	96,372	45,000		9,383		
1935 (10) 年	78,692	15,869	94,561	89,794	134,794	29,195	38,588	173,382
1936 (11) 年	76,428	15,071	91,499	42,351		6,241		
1937 (12) 年	75,062	14,401	89,463	85,010	127,361	25,233	31,474	158,835
1938 (13) 年	71,379	13,259	84,638	38,612		6,184		
				83,167	121,779	24,477	30,661	152,440
				37,817		6,488		
				82,607	120,424	24,053	30,541	150,965
				38,269		6,738		
				81,575	119,844	23,572	30,310	150,154
				35,858		6,063		
				80,684	116,542	21,719	27,782	144,324
				36,278		5,768		
				80,951	117,229	21,721	27,489	144,718
				36,266		5,643		
				80,800	117,146	20,416	26,059	143,205
				35,808		5,577		
				80,951	116,759	20,526	26,103	142,862
				36,322		5,776		
				84,648	120,970	18,221	23,997	144,967
				35,897		5,397		
				81,629	117,526	16,922	22,319	139,845
				33,593		5,389		
				79,691	113,284	16,099	21,488	134,772
				31,977		5,188		
				78,927	110,904	15,236	20,434	131,338
				29,015		4,710		
				75,495	104,510	14,017	18,727	123,237

註1) 付表Iと同一資料より作成。

付表M 主要蘭産生産県の製造戸数・職工数・生産高

	製 造 戸 数					職 工 数					生 産 高							
	登 表 其	及 産 出 向 産	兼 業 者 兼 業	兼 業 者 兼 業	合 計	登 表 其	及 産 出 向 産	兼 業 者 兼 業	兼 業 者 兼 業	合 計	登 表 其	産 額 向 産	産 額 向 産	合 計	登 表 其	産 額 向 産	産 額 向 産	
一八九九(明治32)年	岡山	7,845	499	1,232	9,576	人	人	人	人	人	円	円	円	円	円	枚	枚	本
	大分	20,975	5,474	4,333	30,782						449,788	19,508	1,088,603	1,557,899	1,972,075	206,800	149,110	
	広島	5,630	1,125	5,090	11,845						1,343,403	10,190	53,043	1,406,636	5,668,959	11,820	10,190	
	福岡	2,969	1,245	3,725	7,939						392,854	139,671	744,475	1,277,000	1,090,921	487,193	124,258	
	静岡	5,106	—	22	5,138						54,569	161,077	420,779	636,779	328,392	1,101,246	96,724	
	石川	2,324	25	1,044	3,393						205,713	30,803	—	236,516	1,104,370	301,771	—	
	全国	82,592	8,920	27,567	119,169						89,605	59,035	16,481	165,121	328,233	805,955	2,869	
											3,025,134	701,325	2,460,151	6,186,610	12,939,714	6,306,970	409,960	
															120本	4,100個	150束	
一九〇五(明治38)年	岡山	8,984	907	274	10,165	11,416 (154)	16,698 (2,306)	522 (56)	28,636 (2,518)		496,642	13,880	2,893,480	3,404,002	1,936,346	115,775	360,515	
	大分	21,848	2	1,340	23,190	49,085 (28,975)	62 (61)	2,050 (1,407)	51,197 (30,443)	1,257,716	6,177	4,400	1,268,393	4,929,190	28,630	950		
	広島	7,628	1,694	3,035	12,357	10,933 (2,872)	4,338 (1,589)	5,014 (1,962)	20,285 (6,423)	397,237	177,749	548,578	1,123,564	1,388,157	767,469	83,825		
	福岡	3,136	1,698	3,696	8,530	2,392 (239)	2,141 (144)	5,089 (473)	9,622 (856)	72,036	117,245	360,350	549,631	110,609	961,011	68,924		
	静岡	4,629	1	280	4,910	3,098 (415)	701 (69)	1,865 (139)	5,664 (623)	206,917	41,979	3,800	251,976	862,510	376,620	3,800		
	石川	2,492	233	1,226	3,951	1,700 (764)	—	—	1,700 (764)	126,106	1,446	103,220	230,772	922,203	742,536	16,705		
	全国	91,215	4,659	10,535	106,409	136,434 (58,442)	25,077 (4,759)	16,059 (4,251)	177,570 (67,452)	3,070,308	682,077	4,070,509	7,831,894	12,046,719	6,392,609	556,855		
一九〇九	岡山	9,297	1,028	305	10,630	10,192 (367)	24,156 (1,237)	807 (54)	35,155 (1,658)	808,486	193,906	2,972,815	3,975,207	2,244,640	504,848	409,794		
	広島	11,067	1,544	2,371	14,982	15,251 (4,028)	2,720 (1,021)	4,550 (1,847)	22,521 (6,896)	1,060,910	234,368	387,384	1,682,662	2,861,832	868,328	72,011		
	大分	22,291	2	138	22,431	44,950 (24,823)	153 (151)	147 (88)	45,250 (25,062)	1,599,815	6,958	8,115	1,614,888	5,404,050	29,010	8,115		
	福岡	3,929	2,252	3,169	9,344	5,102 (974)	3,273 (112)	4,332 (143)	12,707 (1,229)	92,251	151,703	349,785	591,739	390,153	829,969	95,427		

(明治42)年	静岡	4,732	336	125	5,193	9,394 (3,650)	339 (189)	155 (150)	9,888 (3,989)	339,081	65,408	64,280	468,719	1,480,790	173,307	18,365
	石川	3,051	279	1,051	4,381	4,225 (542)	387 (73)	2,094 (242)	6,706 (857)	198,001	107,585	36,229	341,815	800,511	1,305,506	6,833
	全国	104,101	6,031	7,670	117,802	167,346 (69,439)	33,036 (3,453)	13,115 (2,804)	213,497 (75,686)	5,087,848	1,239,320	4,015,051	10,342,219	17,061,912	8,431,244	645,511
一九一四(大正3)年	岡山	8,300	1,307	928	10,535	9,643 (973)	1,307 (15)	13,446 (1,024)	24,396 (2,012)	699,080	132,153	1,509,289	2,340,522	2,186,040	407,193	282,361
	広島	12,185	1,349	2,086	15,620	18,851 (4,977)	2,380 (1,157)	3,672 (1,465)	24,907 (7,599)	1,454,464	210,515	220,809	1,885,788	3,796,120	811,162	81,436
	大分	20,202	2	310	20,514	44,040 (22,394)	7 (2)	675 (350)	44,722 (22,746)	692,066	64,007	2,640	758,713	3,811,033	446,780	330
	静岡	4,982	-	-	4,982	8,576 (2,995)	-	-	8,576 (2,995)	341,155	112,602	-	453,757	1,213,509	963,781	-
	石川	3,528	61	923	4,512	4,868 (343)	111 (10)	1,111 (190)	6,090 (543)	274,579	130,060	9,674	414,313	860,921	1,107,335	1,849
	福岡	2,807	1,976	3,238	8,021	3,336 (602)	2,465 (97)	4,723 (144)	10,524 (843)	73,023	72,205	247,704	392,932	315,123	555,750	83,728
	全国	104,514	5,600	8,243	118,357	160,454 (62,095)	8,528 (1,876)	24,800 (3,411)	193,782 (67,382)	4,631,935	1,156,363	2,255,531	8,043,829	16,638,571	9,082,369	491,649
		(産表)	(真産及 差産)	(合計)	(産表)	(真産及 差産)	(合計)	(産表)	(真産)	(差産)	(合計)	(産表)	(真産)	(差産)		
一九一九(大正8)年	岡山	9,777	1,242	11,019	10,122 (672)	6,798 (1,745)	16,920 (2,417)	2,678,463	683,118	5,023,546	8,385,127	2,788,270	1,014,775	467,534		
	広島	9,866	5,979	15,845	15,201 (4,685)	10,905 (2,477)	26,106 (7,162)	5,169,802	987,561	513,608	6,650,971	4,205,064	3,340,277	46,355		
	大分	19,667	33	19,700	47,962 (21,936)	85 (52)	48,047 (21,990)	5,496,927	51,066	4,200	5,552,193	5,466,560	74,140	300		
	福岡	2,066	5,455	7,521	3,056 (170)	7,287 (23)	10,343 (193)	574,513	957,035	974,331	2,505,839	765,632	1,297,832	81,914		
	静岡	4,488	1,339	5,827	7,509 (2,600)	2,272 (995)	9,781 (3,595)	1,323,195	112,580	-	1,435,775	1,594,879	214,184	-		
	石川	3,782	818	4,600	4,931 (241)	1,306 (235)	6,237 (476)	986,003	274,439	10,876	1,271,318	845,296	881,545	691		
全国	84,950	30,840	115,790	136,366 (49,216)	51,042 (13,167)	187,408 (62,383)	19,950,124	4,508,233	7,153,536	31,661,893	20,011,540	11,091,794	640,874			

註1) 各年次の「農商務統計表」より作成。
2) 職工欄()内はうち男工数。

付表 V 蘭草作付面積，生産高の推移

	蘭(備後蘭)				苜蓿(七島蘭)				合計		
	作付支別	収 穫 高	1反当 収穫高	価 額	作付支別	収 穫 高	1反当 収穫高	価 額	作付支別	収 穫 高	価 額
明治	町	貫	貫	円	町	貫	貫	円	町	貫	円
1905(38)年	3,941.0	10,148,212	258	—	1,905.1	3,336,755	178	—	5,846.1	13,484,967	—
1906(39)年	3,125.5	6,864,103	220	—	2,801.3	4,357,634	156	—	5,926.8	11,221,737	—
1907(40)年	4,437.4	11,530,264	260	—	2,212.4	3,603,970	163	—	6,449.8	15,134,234	—
1908(41)年	4,588.9	11,150,148	243	—	2,247.6	4,231,764	138	—	6,836.5	15,381,912	—
1909(42)年	3,623.5	9,210,761	254	—	2,237.5	4,175,503	187	—	5,861.0	13,386,264	—
1910(43)年	2,704.3	8,839,906	239	—	2,225.1	3,894,848	175	—	4,929.4	12,764,754	—
1911(44)年	3,961.6	6,664,641	244	—	2,150.3	4,185,422	195	—	6,111.9	10,850,063	—
大正											
1912(1)年	4,175.3	11,142,882	267	—	2,231.0	4,220,322	189	—	6,406.3	15,363,204	—
1913(2)年	3,765.3	9,605,197	255	—	2,216.1	4,443,079	200	—	5,981.4	14,048,276	—
1914(3)年	3,632.5	8,901,657	245	—	2,002.1	3,976,333	199	—	5,634.6	12,877,990	—
1915(4)年	3,486.5	8,677,804	249	2,560,195	2,084.9	3,650,061	175	1,052,060	5,571.4	12,327,865	3,612,235
1916(5)年	3,766.6	9,514,024	253	3,899,530	2,150.6	4,095,918	190	1,719,153	5,917.2	13,609,942	5,618,683
1917(6)年	5,004.7	13,441,728	268	5,142,478	2,250.1	4,237,724	190	2,396,290	7,254.8	17,679,425	7,538,768
1918(7)年	3,980.6	10,433,950	262	5,601,217	2,071.5	3,449,912	167	2,896,462	6,052.1	13,883,862	8,497,679
1919(8)年	3,667.7	9,640,569	263	7,931,680	2,171.5	4,071,909	190	6,987,255	5,839.2	13,712,478	14,918,935
1920(9)年	3,818.1	9,062,319	237	5,454,050	2,288.6	4,597,956	201	3,413,035	6,106.7	13,660,275	8,867,885

1921(10)年	3,375.7	8,593,508	255	8,757,060	2,124.5	3,909,999	184	3,893,032	5,500.2	12,503,507	12,650,092
1922(11)年	3,771.9	9,802,080	260	8,169,322	2,121.3	3,807,496	179	3,600,686	5,893.2	13,609,576	11,770,008
1923(12)年	4,299.7	10,925,666	254	9,556,977	2,300.1	4,271,325	186	4,032,713	6,599.8	15,196,991	13,828,302
1924(13)年	5,777.3	14,915,089	258	10,052,402	2,628.0	4,286,750	163	4,457,905	8,405.3	19,201,839	14,510,307
1925(14)年 昭和	5,105.0	12,932,933	253	7,284,507	2,802.8	4,903,888	175	4,286,558	7,907.8	17,836,821	11,571,065
1926(1)年	4,637.7	11,447,978	247	6,564,647	2,672.4	4,877,129	182	3,651,568	7,310.1	16,325,107	10,216,215
1927(2)年	4,394.9	11,049,228	251	6,336,133	2,727.2	4,527,670	166	2,852,282	7,122.1	15,576,898	9,188,415
1928(3)年	4,768.7	12,356,211	259	7,296,129	2,722.9	4,470,139	164	3,511,314	7,491.6	16,826,350	10,807,443
1929(4)年	5,370.7	14,531,160	270	8,610,787	2,705.6	4,749,220	176	3,465,903	8,076.3	19,280,380	12,076,690
1930(5)年	5,329.0	13,827,388	259	4,784,070	2,680.1	4,246,250	158	1,904,783	8,009.1	18,073,638	6,688,853
1931(6)年	4,661.8	11,981,883	257	4,459,526	2,660.6	4,144,104	155	1,599,045	7,322.4	16,125,987	6,058,571
1932(7)年	5,390.6	13,908,257	259	6,039,179	2,553.0	4,247,401	166	1,840,585	7,943.6	18,155,658	7,879,764
1933(8)年	6,250.2	15,526,065	248	8,180,018	2,573.6	4,510,960	175	2,025,731	8,823.8	20,037,025	10,205,749
1934(9)年	7,277.9	19,848,668	273	8,463,143	2,591.7	4,069,805	157	2,121,794	9,869.6	23,918,473	10,584,937
1935(10)年	6,976.5	19,088,704	274	7,408,299	2,612.2	3,353,405	128	1,749,802	9,588.7	22,442,109	9,158,101
1936(11)年	6,013.7	15,056,792	250	8,605,276	2,201.9	3,393,407	154	2,242,455	8,215.6	18,450,199	10,847,731
1937(12)年	6,097.6	17,288,674	264	9,295,327	2,376.3	3,852,350	162	2,169,113	8,473.9	21,141,024	11,464,440
1938(13)年	6,143.8	16,412,867	267	11,782,640	2,113.5	3,902,791	171	2,852,837	2,727.8	20,315,658	14,635,477

註) 各年次の「農商務統計表」「農林省統計表」より作成。

付表Ⅴ 主要蘭草生産県

	生産量				生産量			生産額				
	備後蘭	七島蘭	合計		備後蘭	七島蘭	合計	備後蘭	七島蘭	合計		
一九〇五(明治38)年	福 岡	5,348,080	182,282	5,530,362	岡 山	3,199,088	34,100	3,233,188	2,839,842	29,535	2,869,377	
	大 分	15,863	2,112,280	2,128,143	大 分	13,985	2,410,024	2,424,009	19,325	3,401,438	3,420,763	
	岡 山	1,330,200	—	1,330,200	広 島	2,278,061	11,464	2,289,525	2,011,991	10,914	2,022,905	
	広 島	1,306,523	—	1,306,523	一 九 一 九 (大正8) 年	福 岡	1,182,783	151,334	1,344,117	1,003,111	157,144	1,160,225
	熊 本	312,353	313,747	626,100	熊 本	473,983	290,712	764,697	286,791	1,104,860	1,391,651	
	鹿 児 島	180,649	115,445	296,094	石 川	538,643	725	539,368	384,520	672	385,192	
	石 川	276,286	—	276,286	静 岡	56,160	340,237	396,397	57,985	506,562	564,547	
	静 岡	67,868	171,385	239,253	島 根	331,678	425	332,103	203,058	999	204,057	
	佐 賀	12,188	191,764	203,952	鹿 児 島	28,419	239,521	268,091	28,419	238,397	266,816	
	宮 城	164,940	—	164,940	宮 城	221,862	18,127	239,939	149,487	12,344	161,841	
全 国	10,148,212	3,336,755	13,484,967	全 国	9,640,569	4,071,909	13,712,478	7,931,680	6,987,255	14,918,935		
一九〇九	大 分	151,540	2,596,708	2,611,862	岡 山	4,879,031	10,255	4,889,286	4,552,007	7,223	4,559,230	
	岡 山	2,599,923	—	2,599,923	大 分	803	2,750,754	2,751,557	775	2,745,054	2,745,054	
	広 島	2,114,968	—	2,114,968	広 島	2,402,427	2,360	2,404,787	2,143,703	1,683	2,145,386	
	福 岡	1,027,301	176,646	1,203,947	一 九 二 四 年	福 岡	877,600	174,494	1,052,094	692,213	141,779	833,992
	石 川	636,744	—	636,744	熊 本	543,419	301,398	844,817	539,700	325,558	865,258	

(明治42)年	熊本	349,810	252,351	602,161	(大正13)年	静岡	399,080	294,262	684,342	141,675	394,672	536,347
	静岡	75,566	427,391	502,957		石川	335,553	—	335,553	358,832	—	358,832
	宮城	463,401	4,469	467,870		島根	306,351	123	306,474	235,271	98	235,369
	鹿児島	26,708	358,238	384,946		鹿児島	20,138	238,986	259,124	21,193	145,884	167,087
	島根	349,809	—	349,809		高知	184,430	31,350	215,780	107,462	14,988	122,450
	全国	9,210,761	4,175,503	13,386,264		全国	10,925,666	4,271,325	15,196,991	9,556,977	4,032,713	13,589,690
	<hr/>											
一九一四(大正3)年	岡山	2,704,736	—	2,704,736								
	広島	2,669,344	—	2,669,344								
	大分	9,052	2,434,486	2,443,538								
	福岡	1,007,544	128,121	1,135,668								
	熊本	265,946	317,261	583,007								
	石川	447,207	—	447,207								
	島根	383,998	200	384,198								
	静岡	42,129	331,232	376,361								
	鹿児島	61,560	242,184	303,744								
沖繩	21,145	174,245	195,390									
全国	8,901,657	3,976,333	12,677,990									

註1) 各年次の「農商務統計表」より作成。